



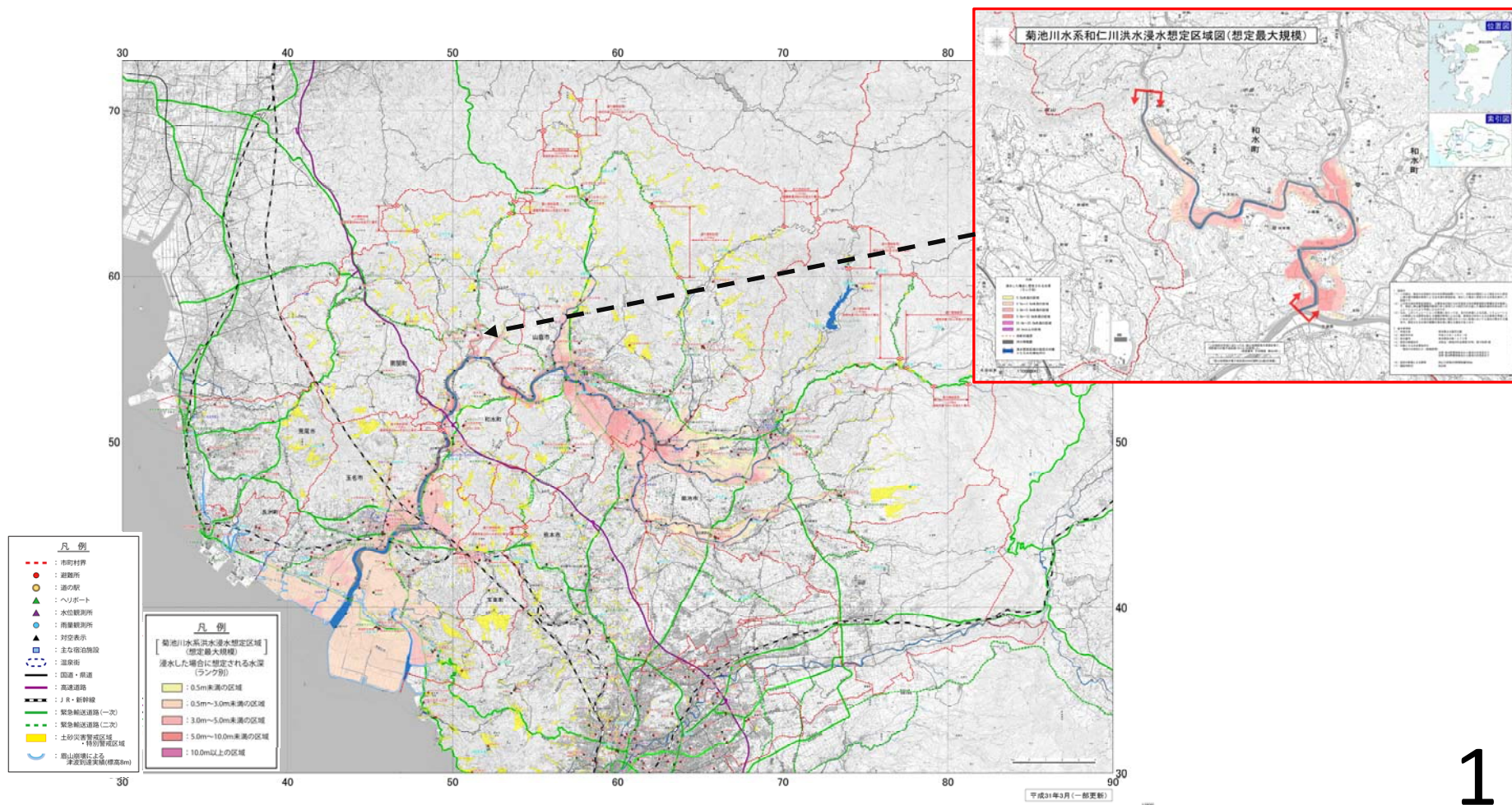
平成30年度の実施状況

■防災情報の提供、各自治体が広域的に連携できるための仕組みづくり

■熊本県北地域広域ハザードマップの更新

○熊本県管理河川において想定最大規模降雨による浸水想定区域図が公表されたため、
広域ハザードマップの浸水区域に反映

○津波の浸水想定区域の追加、各自治体の避難所情報を更新



■水害時の適切な避難行動

■マイハザードマップの作成支援

○河川事務所・山鹿市：山鹿市川北地区の作成支援を実施（ワークショップ、まちあるき）

○熊本県・熊本大学・山鹿市：山鹿市長坂地区の作成支援を実施

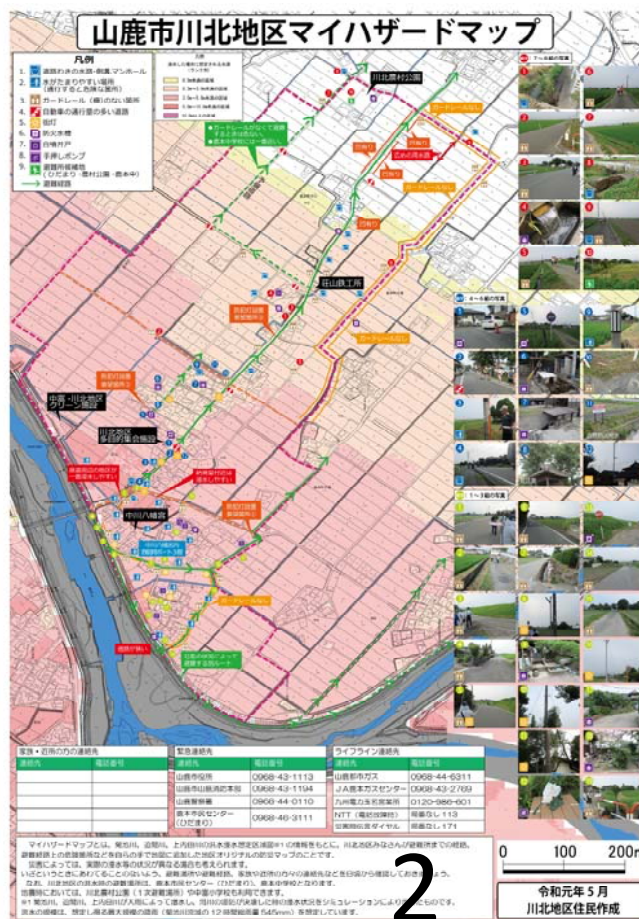
（まちあるき、マップ作成、避難訓練）

○各自治体：地区・自主防災組織単位での支援を実施

○山鹿市川北地区の事例



まちあるき及び結果整理の状況



○山鹿市長坂地区の事例



まちあるき

マップ作成

■水防学習・教育の推進

■小学校における水防災学習資料の検討、作成

○小学校の教科書単元に応じた防災学習資料を作成、本協議会を通じて教育機関へ情報共有（熊本県教育センターのホームページにH31.4掲載）

教科書

作成した教材データ

社会

小学5年社会
【自然災害とともに生きる】
※「教育出版社」対応
情報共有済

【自然災害を防ぐ】
※「東京書籍」対応
H31.3作成

理科

小学5年理科①②
【天気と情報】
【流れる水のはたらき】
※「大日本図書」対応
情報共有済

【台風と天気と変化】
【流れる水のはたらき】
※「東京書籍」対応
H31.3作成

めあて：水害に備えてどのような取り組みをしているか調べよう。

各市町村のハザードマップを活用

集中豪雨

水害を防ぐための備え

ハード対策

ソフト対策

ハザードマップ

避難場所、浸水区域などの確認

まとめ：水害を防ぐために国や都道府県、市町村などが施設を作ったり、訓練をしたり、ハザードマップを作成するなど、様々な公共事業を行っている。

自然災害を防ぐ 2-1

年 組 名前

めあて

① 過去に起こった水害で、わたしたちの地域はどうなったか？

■ これまで学んだ水害の被害

・ 家や農家が壊れた。被害があった。

・ 河川が氾濫し、畑や田が水浸しになった。

・ 大きな水害、洪水などが発生しなくなった。

・ 対策がとれたので、安心だと思ったが、心配だ。

めあて：上流と下流で石の大きさや形に違いがあるのはなぜだろう。

菊池川の上流の石

菊池川の中流の石

菊池川の下流の石

＜気づいたこと＞

・ 上流の石は大きくゴツゴツしている。

・ 上流の石は角がある（角が削れている）。

・ 下流の石はとも小さい。

・ 石は流れながら、石と石がぶつかってどんどん小さく丸くなっていく。

川と川原の石

年 組 名前

めあて

① ちがいを調べよう

どちらが上流でどちらが下流の石か分かるかな？ また、どんな石か分かるかな？

（A：上流）（B：下流）

・ 上流の石は大きくゴツゴツしている。

・ 上流の石は角がある（角が削れている）。

・ 下流の石はとも小さい。

・ 石は流れながら、石と石がぶつかってどんどん小さく丸くなっていく。

② 上流の石と下流の石のちがいはどうしてできたかな？

流れる水のはたらきと関係があるかな？

・ 石は流れていながら、石と石がぶつかってどんどん小さく丸くなっていく。

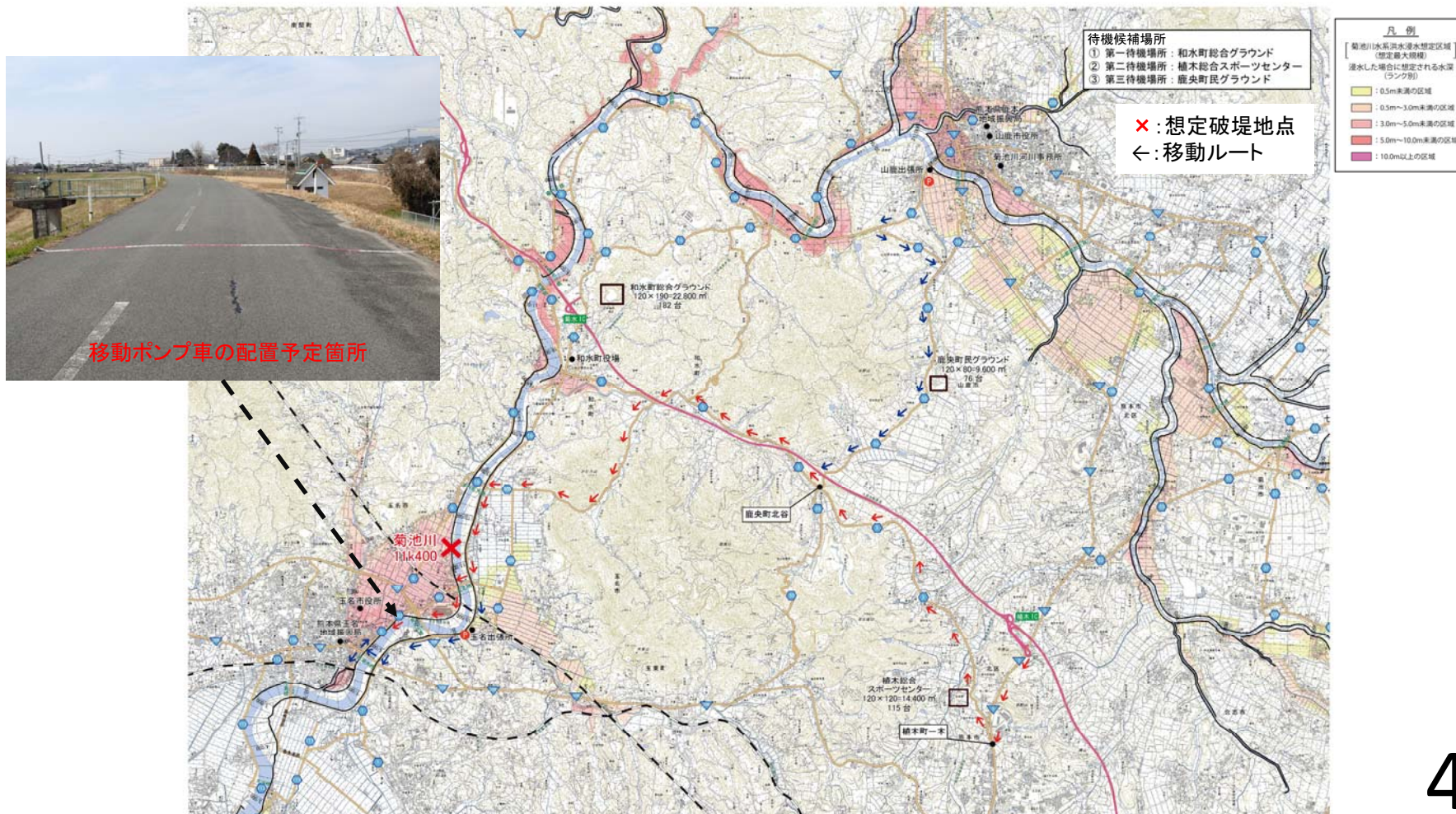
・ 小さい石や砂は流れやすいので、下流にたまえる。

■災害発生を想定した事前準備【公助】、危機管理型ハード整備

■堤防決壊を想定した排水計画の検討

○大規模氾濫時の排水計画の検討を実施中

○浸水継続時間短縮のため、移動ポンプ車、照明車の待機場所・移動ルート、配置箇所等を検討



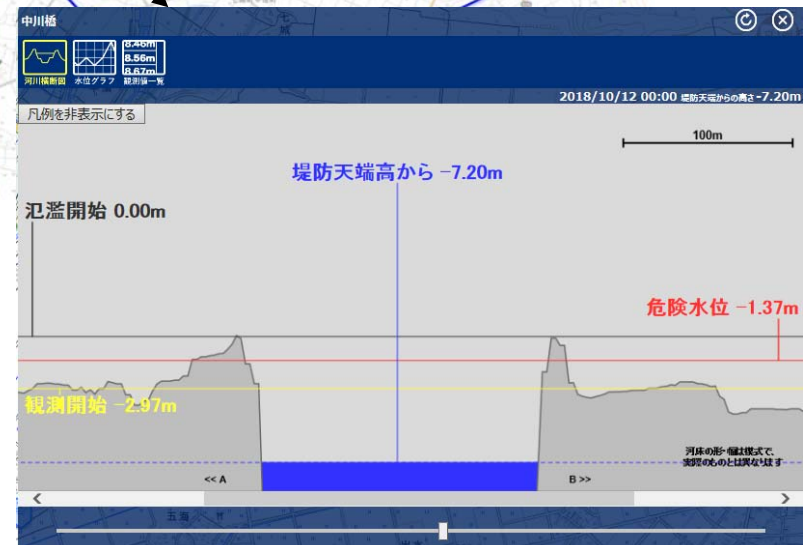
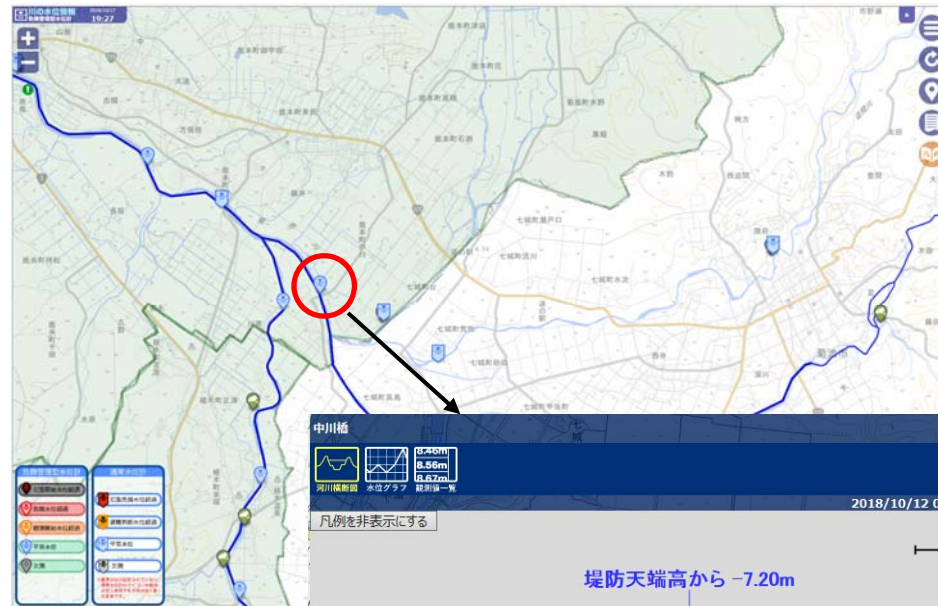
■防災情報の提供、防災情報提供を支援するハード整備

■危機管理型水位計の整備

- 菊池川河川において、35基を設置（国管理区間）
- 熊本県（県北）において、27基を設置（玉名15基、鹿本8基、菊池4基）
- 来年度には簡易型河川監視カメラの設置を検討中



中川橋の危機管理型水位計



■洪水を河川内で流れやすくするためのハード整備

■流下能力向上対策

- 菊池川の和水町下津原地区、山鹿市小原地区において、河道掘削を実施中
- 合志川の平島堰改築、舟島橋架替を実施中
- 玉名、鹿本、菊池地域振興局管内の河道掘削を実施中

和水町下津原地区



山鹿市小原地区



合志川平島堰、舟島橋

